

マリンパック

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前に、この取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、いつでも見られるところに必ず保管してください。

必ずお読みください

- 実際に水中で撮影する前に、水深1mくらいのところで、デジタルカメラが正常に作動するか、またマリンパックに水漏れがないかを確認してから、潜水を開始してください。
- 万ーマリンパックの不具合により水漏れ事故を起こした場合、内部機材（デジタルカメラ、バッテリーなど）の損害、記録内容、および撮影に要した諸費用などの補償はご容赦ください。
- マリンパックおよび内部機器に対するソニー水中機材用損害保険をご用意しております。案内書をお読みのうえ、ご加入をおすすめします。

MPK-P5

Sony Corporation © 2001 Printed in Japan

主な特長

- 本機はソニーのデジタルスチルカメラDSC-P5/P3専用のマリンパックです。(対象のCyber-shotはすべての国で取り扱いしているわけではありません。)
- お手持ちのデジタルスチルカメラに本機を取りつけると、雨天時や海辺（水中では水深40m以内）また雪や雨などの悪天候時での撮影ができます。

○リングのはずれやはさみ込み、ゴミの付着などがあると、水中で水漏れがおきます。
必ず確認したあとに、ご使用ください。
詳しくは、○リングメンテナンスマニュアルをお読みください。

お手入れのしかた

海でご使用した後は、必ず、バックルをはすす前に真水（水道水など）で洗い、塩分や砂をおとしてから、乾いた柔らかい布で水分をふき取ってください。30分程度、真水に浸しておくことをおすすめします。塩分がついたままにしておくと、金属部分が傷ついたり、さびたりして、水漏れの原因になることがあります。サンオイルなどが付着したときは、ぬるま湯でよく洗い流してください。

マリンパック内部は、乾いた柔らかい布でふき、水洗いはしないでください。上記のお手入れはマリンパックご使用のたびに必ずおこなってください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためますので、使わないでください。

- ☐マリンパック内部に水滴がつく
- バックルをカチッとロックされるまで締める。
- リングを正しく装着する。
- リングに傷やヒビが入っている場合には、新しいものと交換する。
- ☐撮影ができない
- バッテリーパックを充分に充電する。
- “メモリースティック”の残量がない場合、別の“メモリースティック”を入れる。または不要なデータを消す。
- “メモリースティック”の誤消去防止つまみを戻す。または別の“メモリースティック”を入れる。



- リングにホコリがつかないようにしてください。
- リングにグリスを薄く塗って溝に入れ、風通しのよい涼しいところに保管してください。バックルは締めないでください。
- 高温、寒冷、多湿な場所や、ナフタリン、樟脳などを入れている場所での保管は、機材をいためますので避けてください。

○リングについて

本機は○リング（オーリング）を使用して防水性を保っています。詳しくは、別冊の○リングメンテナンスマニュアルをご覧ください。○リングの取り扱い方が不適切だと浸水の原因になります。

防滴パッキンについて

防滴パッキンをはずしたり、グリスを塗らないでください。防滴パッキンの浮き、はさみこみは水漏れの原因となります。

グリスについて

グリスは付属の青いチューブのグリスをお使いください。黄色いチューブのグリスや他社のグリスを使うと、○リングをいため、水漏れします。

○リング、グリスとくもり止めリキッドは

お近くのソニーサービス窓口でお求めいただけます。○リング（番号3-071-364-01）グリス（番号3-071-370-01）くもり止めリキッド（番号3-072-039-01）

○リングと防滴パッキンの耐用年数

マリンパックの使用頻度や保存状態によって変わりますが、1年程度です。防滴パッキンを交換する場合は、お近くのソニーサービス窓口へお持ちください。修理費用はおお客様のご負担となります。

取り扱い上の注意

- 本体の前にあるガラス面に強い衝撃を与えないでください。割れることがあります。
- 海辺や海上でのマリンパックの開閉はできるだけ避けてください。デジタルスチルカメラの取り付けや“メモリースティック”交換などは、湿気の少ない、潮風のあたらない場所で行ってください。
- マリンパックを水中に投げ込まないでください。
- 波が高い場所でのご使用は避けてください。
- 次のような環境でのご使用は避けてください。
 - 高温多湿な場所
 - 40℃を越える温水の中
 - 0℃以下の場所
- 結露、水漏れ、デジタルスチルカメラの故障の原因になります。
- 周囲温度が35℃を超えるときのご使用は、連続30分以内にしてください。
- 高温多湿の場所や炎天下に長時間放置しないでください。やむをえず直射日光のあたる場所に置く場合は、上からタオルなどをかけて保護してください。
- マリンパックに長時間収納して使用していると、デジタルスチルカメラが熱くなります。日陰などの涼しい場所にしばらく放置してから、デジタルスチルカメラを本機から取り出してください。

水漏れについて

マリンパックにサンオイルなどが付着したときは、必ずぬるま湯でよく洗い流してください。付着したまま放置していると、マリンパック表面の変色やダメージの原因となります。

水漏れについて

万ーマリンパック内部に水滴などが確認された場合は、ただちにご使用を中止してください。デジタルスチルカメラが濡れた場合は、至急お近くのソニーサービス窓口へお持ちください。修理費用はおお客様のご負担となります。

くもり止めリキッドについて

マリンパック前部のガラス面に付属のくもり止めリキッドを塗布すると、くもり防止に効果があります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受けとってください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェック
この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービス
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証書は国内に限られています
付属している保証書は、国内仕様です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。耐水压試験および耐水压試験に関わる修理には日数がかかります。またご要望により耐水压試験をおこなう場合は有料となります。当社ではマリンパックの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
●型名：MPK-P5
●故障の状態：できるだけ詳しく
●お買い上げ日

主な仕様

材質

プラスチック（PC、ABS）、ステンレス、ガラス

防水構造
○リング、バックル

耐圧

水深40 mまで

外部より操作可能なスイッチ

POWER（パワー）、モード、シャッター、ズーム、フラッシュ、マクロ、コントロール、セルフタイマー、レビュー

最大外形寸法
（最大突起部を除く）
157×84×79 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量

約400 g（本体のみ）

付属品

ネックストラップ（1）
グリス（1）
○リングリムーバー（1）
スパーサー（1）
くもり止めリキッド（1）
取扱説明書（1）
○リングメンテナンスマニュアル（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
水中機材用損害保険のご案内（1）

別売アクセサリ

カラーフィルターキット：VF-MP5K
アームキット：VCT-MP1K
水中ビデオライト：HVL-ML20（アームキットVCT-MP1K、“インフォリチウム”（Lシリーズ）バッテリー、バッテリーチャージャーとの併用が必要です）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります
ご了承ください。

マリンパックを使う（つづき）

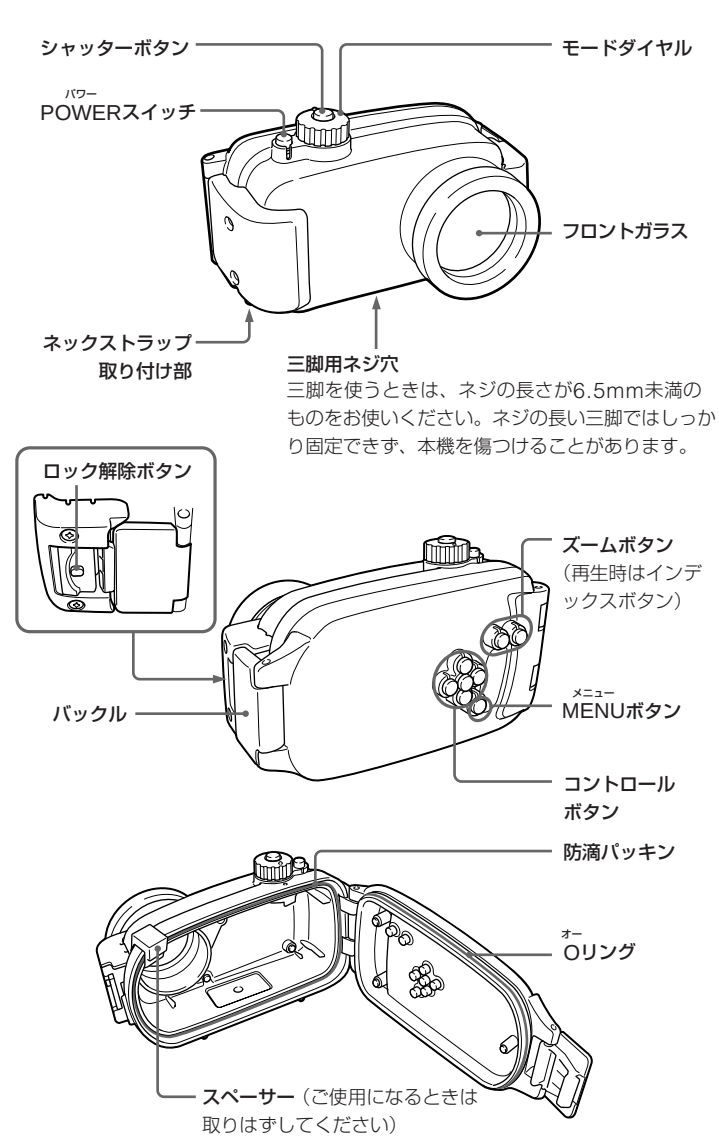
ダイビングの前に

水中撮影をする前に、水深1m程度のところで正常に作動するか、また水漏れがないか確認してから潜水を始めてください。
デジタルスチルカメラは、ダイビングの前にあらかじめマリンパックに取り付け、船上や海岸などでのマリンパックの開閉は、できるだけ避けてください。デジタルスチルカメラを取り付けるときは、できるだけ湿気の少ないところで行ってください。
ご使用の前に、マリンパックの前後のボディの間に異物のはさみ、ゴミがないかを確認してください。
水中で撮影すると、被写体の色が青みがかって見えることがあります。このような場合は、色の補正に別売りのカラーフィルターキットVF-MP5K（別売り）をお使いになることをおすすめします。

撮影に適した時間

太陽が真上にある午前10時から午後2時頃までが、撮影に最も適した時間です。
太陽の光が届きにくい場所での撮影や夜間の撮影には、水中ビデオライトHVL-ML20（別売り）をお使いください。

各部の名前



安全のために

ソニー製品は、安全に充分配慮して設計されています。しかし、まちがった使い方をすると、火災などによる人身事故が起きるおそれがあり危険です。事故を防ぐためにつぎのことを必ずお守りください。

- 安全のための注意事項を守る
- 故障したら使わずに、お買い上げ店またはソニーサービス窓口 に修理を依頼する

変な音やにおいがしたら、煙が出たら

① 電源を切る

② お買い上げ店または、ソニーサービス窓口 に修理を依頼する

警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

禁止

行為を禁止する記号

注意

行為を指示する記号

警告

下記の注意事項を守らないと、事故により死亡や大けがの原因となります。

注意

潜水中の使用は周囲の状況を把握し、安全に充分注意を払う
注意を怠ると、潜水事故の原因となります。

注意

万一、マリンパックに水漏れが発生した場合
浮上時の減圧時間を守り、周囲の状況に注意しながら浮上してください。

注意

水中でネックストラップを首にかけて使用しない
ネックストラップが首に巻きつくなど、けがや事故の原因となります。

注意

下記の注意事項を守らないと、けがをすることがあります。

禁止

衝撃を与えない
ガラス部分が割れて、けがの原因となることがあります。

準備

デジタルスチルカメラの準備

デジタルスチルカメラの取り付けは、湿気の少ない室内等でおこなってください。高温多湿な場所でのマリンパックの開閉は、マリンパック前部のガラス面のくもりの原因となります。

デジタルスチルカメラDSC-P5/P3の取扱説明書もあわせてご覧ください。

- リストストラップをはずす。
- バッテリーを取り付ける。
十分に充電してあるバッテリーを取り付けてください。
- “メモリースティック”を入れる。
- デジタルスチルカメラの電源を入れる。
- デジタルスチルカメラの液晶画面をONにする。
- デジタルスチルカメラの各設定をオートにする。
- デジタルスチルカメラのAFイルミネーターをOFFにする。
AFイルミネーターは使用できません。

デジタルスチルカメラのレンズや液晶画面が汚れていないことを確認してください。
詳しくは、お使いのデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

デジタルスチルカメラをマリンパックに取り付ける

- デジタルスチルカメラの電源を切る。
- デジタルスチルカメラのモードダイヤルを「**■**」にする。

ロック解除ボタンを押しながら①、バックルを矢印②の方向にスライドさせて、③の方向にはずし、マリンパックのボディを開く。

ご注意
スパーサーは、マリンパックを保管する際に必要ですので、紛失しないようにご注意ください。

- マリンパックの準備をする。

別冊のリングメンテナンスマニュアルを必ずお読みください。
リングの取り扱いについての重要な説明が書かれています。

- 付属のリングリムーバーを使って、Oリングを取りはずす。
- Oリングにグリスを塗る。
Oリング、溝および本体との接触面の砂やゴミなどをきれいにし取り除き、Oリングに薄く均一にグリスを塗ります。
- 防滴パッキンに砂やゴミが付着していないかを確認する。

ご注意
● 防滴パッキンをはずしたり、グリスを塗ったりしないでください。
● 砂やゴミが付着したままふたを閉めると、本体に傷をつけたり、浸水の原因となることがあります。

- フロントガラスにくもり止めリキッドを塗る。
フロントのガラス面の内側にくもり止めリキッドを3〜4滴たらして、コットン、柔らかい布、ティッシュペーパー等でクリーナー液が均等に広がるように拭いてください。

ご注意
● くもり止めリキッドは、マリンパックを開める直前に塗ることをおすすめします。

- くもり止めリキッドの量が少なかったり、塗ったあとにマリンパックを繰り返し開閉すると、マリンパックのフロントガラスがくもる原因となります。

- マリンパックのモードダイヤルの位置をイラストのようにセットにする。

モードダイヤルが正常に動くことを確認してください。

モードダイヤルを回すと、次の順にモードが切り換わります。
SET UP ⇄ ■ ⇄ □ ⇄ ■ ⇄ ●

各モードについては液晶画面で確認してください。

デジタルスチルカメラが正しく入っているか確認してください。
DSC-P5をマリンパックに収納したときに、レンズの中心がマリンパックのフロントガラス部中心に対してずれていますが、撮影等には問題ありません。

- ボディを閉じて、バックルを締める。
ボディをしっかりと押さえ、バックルがカチッとロックされるまで押してください。

ボディを閉じる時のバックルの位置

① 良い例

② 悪い例

②の状態ではバックルを締めると引っかかり、ロックできません。

ご注意
マリンパックのボディを閉じるとき、Oリングの表面とマリンパックの溝に、ゴミや砂、毛髪などがついていないことを確かめてください。
上記のような異物を挟み込むと、浸水の原因となることがあります。

ネックストラップについて

- 水中でネックストラップを首にかけて使用しないでください。
- ご使用前に付属のネックストラップを取り付けることをおすすめします。

別冊のリングメンテナンスマニュアルを必ずお読みください。
リングの取り扱いについての重要な説明が書かれています。

① 付属のリングリムーバーを使って、Oリングを取りはずす。
② Oリングにグリスを塗る。
③ 防滴パッキンに砂やゴミが付着していないかを確認する。

④ フロントガラスにくもり止めリキッドを塗る。
フロントのガラス面の内側にくもり止めリキッドを3〜4滴たらして、コットン、柔らかい布、ティッシュペーパー等でクリーナー液が均等に広がるように拭いてください。

マリンパックを使う

撮影する

- POWERスイッチを「ON」にする。

モードダイヤルが正常に動くことを確認してください。

モードダイヤルを回すと、次の順にモードが切り換わります。
SET UP ⇄ ■ ⇄ □ ⇄ ■ ⇄ ●

各モードについては液晶画面で確認してください。

- モードダイヤルを希望のモードに合わせ、シャッターボタンを押す。

液晶画面を見ながら撮影できます。
静止画を撮影するとき…デジタルスチルカメラのモードダイヤルを「**■**」にする。
動画を撮影するとき…デジタルスチルカメラのモードダイヤルを「**■**」にする。
夜景モード撮影するとき…デジタルスチルカメラのモードダイヤルを「**●**」にする。
動画撮影時、音声を記録することはできません。

ご注意
デジタルスチルカメラを収納した状態で、モードダイヤルをから回ししないでください。故障の原因になります。

さまざまな機能を使う／設定をする
マリンパックに収納したデジタルスチルカメラDSC-P5/P3のさまざまな機能を使うことができます。

①フラッシュ／コントロールボタン

②レビュー／コントロールボタン

③マクロ／コントロールボタン

④決定／コントロールボタン

⑤セルフタイマー／コントロールボタン

ズームする
ズームボタンを押します。

W側を押し続けると、徐々に広角（Wide）になります。

T側を押し続けると、徐々に望遠（Telephoto）になります。

ご注意
● ファインダーによる撮影はできません。
● 撮影一時停止状態が3分以上続くとき自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぐためです。再度撮影するには、POWERスイッチを「ON」にしてください。

コントロールボタンを使って画像を見る

デジタルスチルカメラのコントロールボタンを使って、液晶画面で撮影した画像を見ることができます。このとき音声は聞こえません。

- POWERスイッチを「ON」にする。

- コントロールボタンを操作して、再生したい画像を選ぶ。

前の画面へ

次の画面へ

詳しくは、お使いのデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

デジタルスチルカメラを取りはずす

- POWERスイッチを「OFF」にする。

デジタルスチルカメラを出し入れするときは、必ずPOWERスイッチを「OFF」にしてください。「ON」のままではデジタルスチルカメラのレンズを傷つけることがあります。

- マリンパックのモードダイヤルの位置をイラストのようにセットする。
- ロック解除ボタンを押しながらバックルをはずし、マリンパックのボディを開く。

- デジタルスチルカメラを取り出す。

長時間ご使用になったときは、デジタルスチルカメラが熱くなります。電源を切ってからしばらく放置したあとに、デジタルスチルカメラを取り出してください。

デジタルスチルカメラを取り出すとき、落とさないようにご注意ください。

ご注意
マリンパックを開けるときは、マリンパックを水道水または真水で洗い、柔らかい布で水滴をふき取ってください。このとき、体や毛髪、ウエットスーツの袖口などからの水滴がデジタルスチルカメラにかからないようにご注意ください。